

## この夏も確認！ミナミハンドウイルカの養子取り

2021年7月10日、父島周辺海域にて、ハシナガイルカの子どもを連れたミナミハンドウイルカが観察されました。昨年に続き、2年連続の確認です。ミナミハンドウイルカによるハシナガイルカの子どもの同伴は、2013年7月に初めて確認されて以降、ほぼ毎夏のように観察されており、小笠原における夏の風物詩となりつつあります。OWAでは、このようなミナミハンドウイルカの行動を、異種間での「養子取り (Adoption)※」と呼んで、情報を集めています。

今回、ハシナガイルカの子どもを連れていたのは、識別番号 #336 (ニックネーム: Y2カット) として登録されている個体でした。#336の性別はメスで、まだ出産は確認されておりません。これまでの記録から、「養子取り」行動が確認されている個体はすべて共通してメスであることがわかっており、今回も同様にメス個体による同伴であったことから、父島周辺海域を利用するメスのミナミハンドウイルカの間で「養子取り」行動がブームのようになっている可能性が考えられます。では、同伴されているハシナガイルカの子どもが無事に大きく成長するかというと、残念ながらそのような事例は確認されておらず、同伴期間の最長記録は2ヶ月弱という短いものに留まっています。さて、これらのミナミハンドウイルカは、一体何を思ってハシナガイルカの子どもを連れてくるのでしょうか。真剣に養育するつもりがあるのか、それとも、…。

OWAでは、引き続きミナミハンドウイルカの「養子取り」行動の情報を集めています。「ミナミハンドウイルカがひときわ小さな子どもを連れてくるな」と感じた場合、もしかすると、それはハシナガイルカの子どもかもしれません。「養子取り」行動を目撃された方は、ぜひOWAまでお知らせいただけますと幸いです。

※実の親が不在の状況で、ある個体が他個体の子どもの世話をしたり、育てたりすること。

#336 Y2カット・メス

観察歴  
2017年～

ハシナガイルカの子どもには、まだはっきりと胎児線が残っており、生まれて間もないことがわかる。



Instagramでイルカの個体情報をお届けしています！



OWA公式のInstagramアカウントを開設しました！

小笠原のイルカ・クジラのことを中心に、島の様子や観光・自然関連の写真をお届けしています。

ミナミハンドウイルカの個体情報や識別ポイントも紹介していますので、『イルカ通信』や『小笠原のミナミハンドウイルカ 個体識別カタログ2020』とともに、ぜひチェックしてみてください！



OWA.OCASAWARA